



修理作業中の長野さん

A PLUSに着目したのは店舗のグレードを上げるためでもなく、ライバル店との差別化を図るためでもなく、整備技術力をアピールするためでもなかった。長野さんが時代の流れとともにより感じるようになったのが、ユーザーの意識の変化だ。「昔のスポーツバイクユーザーと違って最近のユーザーは、事故がなく楽しくサイクリングできるように、常に自転車を整備しておく必要があることを、あまり意識していないと感じる。実際にブレーキが壊れても、足で止めればいい」と、そのまま乗っているユーザーもいたほど。こちらが修理や点検の必要性を言っても、売上げを上げるためだと捉えられがちだし、そもそも店舗側のコミュニケーションを嫌がる傾向にある。自転車販売店の責任として、そうした意識を高めることは重要。それ



店先には一般軽快車も展示

トップアイドルとして一世を風靡したV6のメンバー、長野博さんの実家としても知られる「サイクルセンターナガノ」が創業したのは、64年を遡った昭和35年のこと。それまで都内の自転車店に勤務していた現代表の長野俊八さんが独立し立ち上げ、現在も夫婦で運営する。その当時、自転車は高級品であり、今のように誰もが気軽に所有できるものでなかった。さらにこの周辺は最寄りの小田急線南林間駅前以外は道路が舗装されておらず、自転車走行に適していなかったため、需要は決して多くなかった。だがそれは、言い換えれば「伸び代だらけ」だったということ。以降は徐々に整備され発展し、今では都心のベッドタウンとして人気のエリアとなった。そんな中で同店はスポーツバイク以外にも駅までの通勤、買い物、子どもの送り迎え等

で利用される一般軽快車、電動アシスト自転車、ライトスポーツ車等幅広くラインナップし、修理・メンテナンスも含め地域の自転車生活を63年間支えて続けてきた。

長野さんに話を聞いて興味深かったのが、その昭和中期と現在との自転車販売店の違いだ。創業当時に同店が扱っていたブランドはパナソニック、ミヤタ、マルイシ等で、スポーツバイクも積極的に販売していた。そして、そのビジネスは確かな自転車整備技術がなければ成り立たなかったという。メーカーからの納品は今のようにつなごうと八分組みではなく、パーツひとつひとつを総て、販売店が組み上げていた。つまり長野さんは既に、高い整備技術を持っていたことになる。それでいながらSBAA PLUS制度が発足した2007年の第1回目にエントリーし、認定を受けた。果たして何が、長野さんを動かしたのだろうか。

ユーザー自身の安全面の意識を高めなければ

「医者をはじめ、確かな知識や技術が必要な職業の多くで資格が必要なのに、自転車業界にはそれが無い。ユーザー側もそのことを、特に気にしていない。整備技術には自信を持っていたのでその証として取得し、それが将来的に他の効果にも繋がればと思った」。まだ世に知られていなかったSBAA PLUS

が、延いては販売や修理・メンテナンスの売上増にも繋がる」。SBAA PLUS資格認定者として各講座により新たな知識や販売のアドバイスを得られることもひとつの価値だが、長野さんが求めるものはSBAA PLUSが世の中に浸透することによって修理や点検、メンテナンスの重要性をユーザーが理解し、認定者がそれを安心して任せられる存在だと認識されることだという。その意味ではもつと多くの自転車販売店スタッフが認定を受け認知向上させるべきであり、自転車協会ももつとアピールを重ねていかなければならない。いずれそうなるだろうと「伸び代」を信じ、真っ先に資格認定に動いた長野さんの中には、街がまだ形成されていなかったこの街の将来性を見て店舗を構えた、創業当時の思いと通ずるものがあるのかも知れない。

▽住所：神奈川県大和市南林間1-19-11
TEL：046-274-4439
▽営業時間：10時～19時
▽定休日：水曜日
▽小田急線南林間駅から徒歩3分ほどに立地する、スポーツバイクから一般軽快車、電動アシスト自転車等幅広く取り扱う自転車販売店。スポーツバイクのラインナップは現在主流のカーボンフレームではなく、クロモリやチタン等のレトロ系がメイン。またオーダーも受け付けており、古くから付き合いのあるオールドユーザーのニーズに込んでいる。

一般社団法人 自転車協会

資格認定者がSBAA PLUS に望む将来の価値

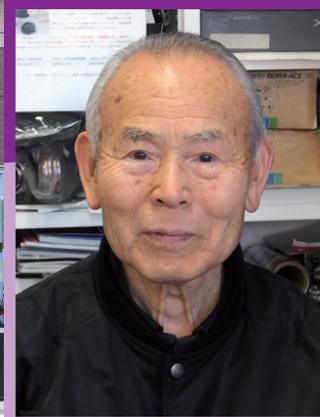
(一社)自転車協会が展開するスポーツバイクを取り扱うスタッフの認定資格「SBAA PLUS」。全国840名のSBAA PLUS認定者は果たしてそこにどんな価値を見出しユーザーの安全安心にどう役立っているのか。今回は神奈川県大和市にある「サイクルセンターナガノ」の代表、長野俊八さんに話を伺った。



SBAA PLUS 認定証



サイクルセンターナガノ



代表の長野俊八さん